



視察先

新潟県糸魚川市役所、長野県安曇野市役所、長野市役所 平成27年7月14日～16日

7月14日(火)、新潟県糸魚川ジオパーク戦略プランについて

まずは伊豆箱根鉄道、東海道新幹線、北陸新幹線を乗り継ぎ新潟県糸魚川市役所に向かった。糸魚川市は平成17年に糸魚川市、能生町、青海町が合併し、現在の糸魚川市(糸魚川という名前だけで現存しない川とのこと)が誕生したそうです。

面積は746km²、人口は45,300人、昔から石灰石の採掘が盛んでセメントや工業ゴムなどを生産しており、市外への出荷額も化学工業が圧倒的な比率を占めています。それに伴い市民の雇用にも大きく貢献しているそうです。

日本で初の世界ジオパーク認定された糸魚川ジオパークは市内に24のジオサイトが存在していました。簡単な説明の後、フォッサマグナミュージアムに向かった。館内に入ると小滝川や青海川の巨大なヒスイや色々な鉱物、鉱石、隕石、岩石、化石などが所せましと展示されていました。

フォッサマグナは、恐竜時代の後に日本列島がアジア大陸から引き裂かれ、今の日本列島が誕生したそうです。その時に出来た大地の裂け目が、噴火や堆積により周りと違う地層となり、フォッサマグナ(糸魚川・静岡構造線)となったそうです。深さは6000m以上あるそうです。

施設、設備、展示品、も立派でしたが、担当の方の熱の入った説明についての話に引き込まれてしまいました。伊豆半島ジオパークにもこの様な人材が必要だと感じました。

7月15日(水)、長野県安曇野市役所の都市計画線引き廃止について

安曇野市は、面積は332km²、人口は98,425人、伊豆市の面積とほぼ同じで、人口比較は3倍のとなっています。西側には北アルプスがそびえ、その裾野に扇状地が広がり、北アルプスからの清流によりワサビ栽培、水稻栽培(長野県一)が盛んです。人口は松本市のベッドタウンとしての役目も担い9.8万人となっています。

都市計画線引き廃止について

マスターplanの策定は、市民を中心とした都市計画策定委員会で検討が行われ、その後、市の都市計画審議会に諮問され審議が行われました。

合併前にあった5つの都市計画区域(1つは線引きあり、4つは非線引き)を平成24年、区域区分(線引き)は廃止し、要するに市街化区域と市街化調整区域を廃止し、1つの都市計画区域に統合し、新たな安曇野都市計画区域としました。これ以後、市条例による土地利用制度の独自の運用となりました。

都市計画区域は、1つ目.市街化区域だけの都市計画区域、2つ目.市街化区域と市街化調整区域に線引きされた都市計画区域、3つ目.用途地域が指定された非線引き都市計画区域、4つ目.用途地域が指定されていない非線引き都市計画区域の4つに分けられていますが、安曇野市は、3つ目.用途域が指定された非線引き都市計画区域と当たると思います。

市街化区域と市街化調整区域を廃止したため土地利用制度についての基本区域は、拠点市街区域、準拠点市街区域、田園環境区域、山麓保養区域、田園居住区域、森林環境区域と大きく6つを定めて

います。以前にも存在した住居地域、商業地域、工業地域、農地法、農業振興地域の農用地区 p.2 の青地、白地、国立公園自然公園法などを加味し、安雲野市の生立ち、成立ち、現況、市民の要望、市の構想を柔軟に取り入れ、市条例による新たな土地利用制度を完成させたと感しました。

7月16日(木)、長野市役所の地域おこし協力隊と中山間地域の振興について

長野市は、面積は834km²、人口は38万人、面積は伊豆市の倍で、人口は11倍のとなっています。地域おこし協力隊の募集目的については、市内中山間地域では過疎・高齢化が進み、休耕地の増加、農業の担い手不足が深刻化している。定住人口の増加、交流人口の増加、特色ある地域づくりを満足させるため、この事業を推進していると思われました。

隊員の業務内容については、農産物の生産販売、商品開発、そのブランド化、遊休農地の活用、木材の製品化、販路拡大、観光PR、イベント企画、地域への協力、空き家対策、高齢者世帯への援助等。

採用の条件としては、住民票を移し、協力隊員の任務終了後も地区に定住する意思のある者。

普通免許の有る者、パソコンの出来る者、55才未満の者。勤務時間については、一週間 32~40時間。待遇は長野市特別職非常勤職員で、給与は16.6万円で活動費用は一定額市が支給する。社会保険、雇用保険の加入有り、有給休暇もある。居住、車両は市が貸与する。

雇用期間の1年間から最大3年間は、以上の恩恵がありますが、隊員の任期終了後は、全ての補助が無くなり、自立、独立、定住しなければなりません。よほどの強い意志と、しっかりした生活設計が無ければトライ出来ないと感じました。